

2009年8月22日

[ルート] 登山口⇄矢筈山  
 [参加者名] CL Y.NARA 他9名  
 [コースタイム] 青森市戸山 6:58 → おつ市内 9:00 → 下風呂いさりび公園  
 9:38~9:46 → 国道入口(桑畑温泉)9:53 → 登山口 10:21 出発  
 10:37 → 山頂11:00~11:35 → 登山口 11:51 → 大間崎  
 12:43~13:21(昼食)→ 佐井・願掛岩ケビンハウス 14:20 着 (泊り)

## [登山口までのアプローチ、登山口の様子]

青森市内から風間浦村・桑畑までは国道なので舗装である。123.3km。桑畑温泉から山道に入る。大間崎進行方向左側。登山口までの林道はフラットで状態がよい。普通乗用車でも走行できる。ゆるい右カーブの所左側に乗用車4台くらい置けるスペースがあり、進行方向に斜めに登って行く所が登山口である。入口に変な物がぶら下がっている。国道から7.6km。

## [山行記録]

天候はれ。参加者10名、車三台に分乗して「下北の山」の山行が始まる。おつ市内を通り過ぎ、風間浦村の桑畑地区に到着。桑畑温泉の看板に従って、狭い舗装道路を登る。温泉施設を右に見て進むと、間もなく舗装は途切れて、砂利道になる。雨で流れて掘られているかと思ったが、ワダチなどもなく状態はいい。新しい送電線の鉄塔が見えて間もなく、ガイド本の写真に似たところにて車を寄せて停車させる。登山口とは思えない、未知への入口である。草に覆われた道を緩やかに登り、右折すると間もなく急登が始まる。山頂を目指して一直線の登りは、岩手県の信仰の山と同じだ！ブナとヒバの混合林であるが、青森の山とは思えないほど、笹の大きさや密度の濃さが少ない。津軽海峡に面しているのか、大きく育たない。高度を上げていくほどに、風の音も大きくなっていく。おかげで、あまり暑さを感じなく程よい登山であるのだが、斜度が急だ！。それに、新しい登山靴のソールが固いために、ふくらはぎが引っ張られて痛い。里山は、靴底の柔らかい物に限る。

苦痛を楽しみ間もなく、祠の前まで登って来てしまった。最高地点はすぐ後ろの大きな岩である。岩の上に登ってみても、木々のために展望はない。三角点も覗いてみたけど見当たらない。石の前に集合をして、記念写真を撮る。向い側の高い所にMKさんが登ってみて、「恵山が見える〜。あれは横津岳だ〜。…」叫んでいたのも、交替交替で登ってみる。定員2名の岩の上に。お賽銭はT.Oさんが代表して祠の中に入れた。山に登ると決まって神様に賽銭をあげるそうです。神のご加護を彼に……。風も強くなってきましたので、早々と下山することに。あつという間の、林道到着でした。



追記：山頂に祀られている矢筈山権現は約290年前に建立。この国では、自然の石や岩を御神体とする風習が古来よりあります。もしかして、もしかして、あの石は御神体でなければよいのだが。……みんなで足でふんずけたので、この先何事も起こらなければよいのじゃが。

報告 T.SAITOU

2009年8月23日

[ルート] 川内せせらぎ荘台於法岳  
 [参加者名] CL Y.NARA 他9名  
 [コースタイム] 願掛岩ケビンハウス 7:50 出発 → 川内せせらぎ荘 8:30 →  
 於法岳入口の看板 9:14 → 戻る 9:49 → 登山口の看板 10:10 →  
 小沢 休憩 10:26 → 山頂手前広場 12:10 → 三等三角点山頂 12:21  
 → 山頂手前広場 12:30~12:50 → 登山口の看板 14:12 →  
 駐車地点 14:24 出発 14:52 青森着 18:30

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

川内溪谷入口・せせらぎ荘までは、よい道路。裏の砂防ダム工事のため林道は車の走行に向いていない。駐車地点手前左側からの林道を進むと、直進と右に登る道と分かれる。直進する方に。この先Y字路左に進むと、沢に出る。登山口の看板あり。ここからは一般の登山道路。思ったほどに草に覆われていない。

[山行記録]

下北の山行二日目、天候晴れ。せせらぎ荘到着後右の林道を進み、登山口を探すが見当たらない。そのうち、工事現場のほうで「せせらぎ荘」の車の人に於法岳入り口まで案内してもらおう。リーダー及びサブの方々は登山道案内を聞いている。荒れた林道を広い方を選んで進む。目印テープに従い道を進み行き止まる。ピンクのテープに従い、藪を漕ぎ、また林道に出るが行き止まる。が、またピンクのテープに従い怪しげなる踏み跡に入り込むが、道は不明瞭から無くなる。「ここはいったん、お引きになった法がよろしいのでは？」と、進言する。…リーダーの命令で分る所まで撤退する。先ほど通った林道に出て、気を取り直して進む。T字路を右に進み、Y字路を右に進むと先ほど地面に印を付けた所に遭遇した。Y字路を左に入ったM.K・K.T組が叫んでいるので、Uターンしそちらの方に進む。草が生えている怪しげな道だが、沢の所に出て「於法岳登山口」の看板を発見する。標柱から看板まで56分探し求めました。

沢を左手に見ながらの緩い登り。右からの枝沢を、またいでから休憩。3本目の沢、二股状の右沢を越えて少し登ると、林の中の大きな広場に出る。草に覆われていて、踏み跡が消えているが、正面の左沢の左岸に登山道を発見する。北に進路を変え、この二股の尾根上を進む。右手上方に於法岳の全体像が確認できる。尾根の地形が無くなり、山の本体に九十九折りの急登となる。このあたりからは口呼吸に変え、最適なペースを模索する。岩の脇を回り込んで行くと、笹藪の背が高くなり東西の細長い於法岳の山頂部の西端に取り付いた。

ブナ林の中を進むと最高地点の大きな広場に飛び出す。地元の記念登山の看板や標柱が立ち並んでいるが、笹に囲まれていて展望が全くない所。三角点のある山頂へ向かうが、途中で大半のメンバーが先ほどの広場に戻る。ピークハンターの M.K・H.H・T.S・M.M はお昼の休憩時間を削っても、この先のピークへと向かう。狭い山頂は4~5人ほどしか立てない、三等三角点であった。展望は北から東、南で釜臥山や川内側の陸奥湾が眺められる。また、車を置いたせせらぎ荘や工事の砂防ダムも眺められた。午後から曇りもしくは雨との情報なので、先ほどの広場にて青森労山恒例の早食い昼食となる。ほとんどのメンバーはこの山には、二度と来れないと感じているみたいであった。

◎今回参加出来なかった人がいるのでまた来ようよ！

反省と教訓

会の山行ではあまり体験できない、登山口探しが楽しかった。なかなか見つからないので、みんな必死になっているのがよかったです。

報告 T.SAITOU